

| | |
|------------------|---|
| Title | プラトン正義論の解釈と受容に関する欧文包括研究 |
| Sub Title | Comprehensive study on interpretations and receptions of Plato's theory of justice |
| Author | 納富, 信留(Notomi, Noburu) 栗原, 裕次(Kurihara, Yuji) 荻原, 理(Ogihara, Satoshi) 大芝, 芳弘(Oshiba, Yoshihiro) 田中, 伸司(Tanaka, Shinji) 高橋, 雅人(Takahashi, Masahito) 土橋, 茂樹(Tsuchihashi, Shigeki) 田坂, さつき(Tasaka, Satsuki) 近藤, 智彦(Kondo, Tomohiko) 佐野, 好則(Sano, Yoshinori) |
| Publisher | |
| Publication year | 2016 |
| Jtitle | 科学研究費補助金研究成果報告書 (2015.) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | <p>古代ギリシアにおける「正義」の理念を、プラトンの正義論に焦点を当てて西洋古典学、古代哲学の分野から総合的に検討した。研究メンバーは国内外での多くの学会で発表し、欧文と日本語で多数の論文、研究書の公刊を行った。とりわけ2012年8月にイギリス・オクスフォード大学で同大学の研究者と共同開催した国際学会「自由と国家：プラトンと古典の伝統」、及び、2014年4月に慶應義塾大学日吉キャンパスで開催した国際学会「プラトンとレトリック」では、世界の研究者と研究主題について議論を交わした。こうした機会を通じて、日本のプラトン研究が国際的な研究の場となり、またそれを活性化する牽引の役割を果たすことを示した。</p> <p>This comprehensive research project of Western Classics Ancient Philosophy examined the concept of justice in Ancient Greek Civilization, by focusing on Plato's theory of justice. The project members read many academic papers at international conferences inside and outside Japan each year, and published many articles and books both in Japanese and English. In particular, we organized the international conference "Freedom and the State: Plato and the Classical Tradition", in Oxford, UK, in August 2012, and the international symposium "Plato and Rhetoric", on the Hiyoshi Campus of Keio University in April 2014. At both conferences, we provided important opportunities of discussing this topic with scholars from all over the world. With these achievements, the project has shown that the Platonic studies in Japan have established a platform for international academic activities in this field.</p> |
| Notes | 研究種目：基盤研究(B)(一般) 研究期間：2011～2015 課題番号：23320069 研究分野：西洋古典学, 哲学 |
| Genre | Research Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_23320069seika |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

平成 28 年 5 月 31 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23320069

研究課題名(和文) プラトン正義論の解釈と受容に関する欧文包括研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study on Interpretations and Receptions of Plato's Theory of Justice

研究代表者

納富 信留 (NOTOMI, Noburu)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：50294848

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 15,500,000円

研究成果の概要(和文)：古代ギリシアにおける「正義」の理念を、プラトンの正義論に焦点を当てて西洋古典学、古代哲学の分野から総合的に検討した。研究メンバーは国内外での多くの学会で発表し、欧文と日本語で多数の論文、研究書の公刊を行った。とりわけ2012年8月にイギリス・オクスフォード大学で同大学の研究者と共同開催した国際学会「自由と国家：プラトンと古典の伝統」、及び、2014年4月に慶應義塾大学日吉キャンパスで開催した国際学会「プラトンとレトリック」では、世界の研究者と研究主題について議論を交わした。こうした機会を通じて、日本のプラトン研究が国際的な研究の場となり、またそれを活性化する牽引の役割を果たすことを示した。

研究成果の概要(英文)：This comprehensive research project of Western Classics Ancient Philosophy examined the concept of justice in Ancient Greek Civilization, by focusing on Plato's theory of justice. The project members read many academic papers at international conferences inside and outside Japan each year, and published many articles and books both in Japanese and English. In particular, we organized the international conference "Freedom and the State: Plato and the Classical Tradition", in Oxford, UK, in August 2012, and the international symposium "Plato and Rhetoric", on the Hiyoshi Campus of Keio University in April 2014. At both conferences, we provided important opportunities of discussing this topic with scholars from all over the world. With these achievements, the project has shown that the Platonic studies in Japan have established a platform for international academic activities in this field.

研究分野：西洋古典学、哲学

キーワード：正義論 プラトン 国家 西洋古典 自由 国際学会 哲学史

1. 研究開始当初の背景

(1) 2010年8月に慶應義塾大学を会場に国際プラトン学会「第9回プラトン・シンポジウム」を開催し、海外、国内から多数の研究者や学生が参加して『ポリテイア(国家)』を主題に討論した。その国際学会運営メンバーからなる本研究プロジェクトは、その国際学会の研究成果をまとめ、継続的に発展させる必要性を認識して発足した。

(2) 現代社会は貧富の格差拡大や国際的な紛争、テロの多発という事態に直面して、「正義」の意味が改めて問われている。西洋の「正義論」の原点となったプラトン哲学、とりわけ『ポリテイア』の射程を、専門研究から総合的視野に考究することが求められる。古代ギリシアの知見の総合的な検討として、西洋古典学と古代哲学の共同態勢が構築された。

2. 研究の目的

(1) 国際プラトン学会東京大会をふまえて、プラトン哲学の研究において日本の研究者が果たす役割が広く世界に認識されるようになってきている。日本が国際的な学術拠点となり研究活動をリードすると同時に、日本の研究者たちが欧文による研究成果をより広く発表していくことが必要となる。

これまでの成果の取りまとめと公刊として、小規模な国際学会を複数回主催して日本を中心に研究者のネットワークを広げること、とりわけアジアでの研究連携を図ることが目標とされた。また、欧文での研究発信をより活発化させ、最終的に単行本を出版することを目標に立てている。

(2) 国際的な活動と成果発表は、何よりも日本国内の研究水準を引き上げ、プラトン正義論を中心とした古典学と哲学の学問研究を活性化させる役割を果たす。そのために地道な研究会活動を行い、その成果を共同研究会や公開講演会の場で発表していくことが目標とされた。

3. 研究の方法

(1) 国際学会の開催を本プロジェクトの計画の中心と位置づけ、2つの国際シンポジウムを公開で開催し、多数の参加者を得た。

2012年8月に在外研究中の佐野好則を中心に、オクスフォード大学古典学部、コルプスクリスティ・カレッジとの共催で、2日間の学会をオクスフォード大学で開催した。その国際シンポでは科研メンバー8名が研究発表を行い、イギリス側からも8名の研究者がコメンテータとして登壇して議論を交わした。

2014年4月に慶應義塾大学日吉キャンパスで国際シンポ「プラトンとレトリック」を開催した。これは国際プラトン学会のアジア地区研究会にも認定されている。シンポに当たっては前年より研究発表を公募し、世界17カ国から28名の発表者(うち2名が招待講

演)を選んで3日間の日程で議論を行った。

(2) 毎年3~4回の「共同研究会」を開催し、メンバーの間での研究討論とゲストによる報告を企画した。とりわけ、京都大学、北海道大学、九州大学、東北大学、秋田大学といった東京以外の会場で行った共同研究会では、それぞれの地域のギリシア哲学・古典学研究者、学生と意見交換する機会を作った。また、海外研究者を招いてのセミナー、講演会を毎年開催した。

(3) 海外で開催される関連テーマでの国際学会で積極的に発表し、欧文で論文を公刊する活動に当たった。それらの論文は、最終的に欧文成果(論文集)にまとめられ、近年中に公刊することを目指して準備されている。また、研究成果を日本語の著作、研究論文としても発表した。

4. 研究成果

(1) メンバーの海外の学会や研究会での発表や出版は多数に上った。とりわけ、2013年の国際プラトン学会ピサ大会、アテネでの世界哲学学会には複数のメンバーが参加して、研究成果を発表している。中国などアジアの研究者との連携も強化された。

(2) 海外からの研究者による講演会、セミナーを毎年開催してきた。平成23年度に Hua-kuei Ho(台湾)、24年度に G. R. F. Ferrari(米)、25年度に Nick Zangwill(英)、Douglas Cairns(英)、26年度に Nickolas Smith(米)、Joel Martinez(米)、Anna Marmorodoro(英)、Philip van der Eijk(独)、27年度は Marcelo Boeri(チリ)、Nick Zangwill(英)、G. R. F. Ferrari(米)、Glenn Most(伊)を招いて、それぞれ公開の議論の機会を提供した。

(3) 平成23年度は渡辺邦夫のアリストテレス研究書合評会、24年度に北海道大学で安西眞の講演、中畑正志のアリストテレス研究書合評会、25年度に福岡で松永雄二の講演、26年度は秋田大学で山本建郎、田子多津子の研究報告を行った。

また、26年度には「加藤信朗哲学の総括」を開催し、メンバー以外からは神崎繁、出村和彦、川出良枝からの報告を得た。

(4) 国際プラトン学会東京大会の選抜論文集(図書13)の編集・執筆、及び、加藤信朗哲学の再検討論文集(図書5)はプロジェクトを挙げて取り組んだ研究成果であり、それぞれに本について、出版後に合評会を開催して、広く参加者と検討の機会を持った。

(5) 研究を通じて、プラトンの「正義論」の重要な特徴も明らかとなった。プラトン『ポリテイア』の正義論は、これまでカー

ル・ポパーらが強く批判したような「全体主義的」なものではなく、むしろ「自由」の上に成り立つものであること（高橋、納富）、また、そこでは魂のあり方が問題となることが確認された（田坂、田中、栗原）。また、プラトンの「正義」理念は批判的な形ではあるがストア派やキリスト教父など後代の哲学に大きな影響を与えた歴史も検証された（近藤、大芝、土橋）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 27 件)

Satsuki TASAKA, Loving and knowing, on the interpretation of the *Republic* V: 474b3-480a13, 立正大学大学院紀要、査読有、32、2016、1-22

納富信留、アイデアの超越 魂の変容と現実の開示、思想、査読無、1097、2015、41-49

田中伸司、プラトン『国家』における魂とアイデアの把握、静岡大学人文論集、査読無、66-1、2015、17-41 DOI 10.14945/00009106

納富信留、プラトン『ポリテイア』V. 473c-e 再検討、フィロロギカ、査読有、10、2015、64-76

田坂さつき、プラトンのアイデア論をめぐる問題 『テアイテトス』における相撲の比喩を手がかりに、立正大学大学院紀要、査読無、31、2015、1-18

納富信留、ギリシア神秘哲学の可能性 井筒俊彦『神秘哲学』のプラトン像、慶應義塾大学言語文化研究所紀要、査読無、46、2015、7-29

納富信留、アイデアの永遠と同一 プラトン『饗宴』の「言葉」、西日本哲学会年報、査読有、22、2014、1-16

納富信留、古代ギリシア・ローマにおける「自由学芸」の教育、中世哲学研究、査読無、56、2014、70-79

納富信留、プラトン「アカデメイア」の理念から考える、早稲田大学政治経済学部・教養諸学研究、査読無、特別号、2014、60-75

納富信留、問答法、試問術とソクラテス アリストテレス『ソフィスト的論駁について』34.183a37-b8、フィロロギカ、査読有、9、2014、31-38

Yoshinori SANŌ, The first stasimon of Sophocles' *Antigone* (332-375): comparison with texts on cultural progress, JASCA, 査読有、2、2014、31-45

納富信留、「ソフィスト思潮」とは何か?、ギリシア哲学セミナー論集、査読無、11、2014、41-51 <http://greek-philosophy.org/ja/>

田坂さつき、技術と使用、立正大学文学部論叢、査読有、136、2014、33-62

Noburu NOTOMI, Citations in Plato, *Symposium* 178B-C, *Studi Classici e Orientali*, 査読無、59、2013、55-69

納富信留、プラトン『パイドン』62A の“ἔστιν ὅτε καὶ οἷς”、フィロロギカ、査読有、8、2013、47-53

田中伸司、プラトンの『国家』における友愛と正義、静岡大学人文論集、査読無、63-2、2013、13-35 DOI 10297/7069

納富信留、「理想」とは何か プラトンと近代日本、国土館哲学、査読無、17、2013、1-21

納富信留、プラトンにおける時間と永遠 『ティマイオス』37C-38C、新プラトン主義研究、査読無、12、2013、5-12

Noburu NOTOMI, Contemporary meaning of reading Plato in Japan and Asia, *Études Platoniciennes*, 査読無、9、2012、161-169

Noburu NOTOMI, Gorgias' use of logic and rhetoric, *Papers on Rhetoric*, 査読無、11、2012、190-199

⑲ 納富信留、プラトン『饗宴』178b-c について、フィロロギカ、査読有、7、2012、23-41

⑳ 大芝芳弘、Horatius, *Epod.* 11、フィロロギカ、査読有、7、2012、1-22

㉑ 納富信留、結合術 *ars combinatoria* としての対話法 プラトン『ソフィスト』篇における哲学理念、慶應義塾大学言語文化研究所紀要、査読無、43、2012、101-115

㉒ 栗原裕次、プラトンと<ポリス>の哲学 民主政「洞窟」の内と外、法政哲学、査読無、8、2012、45-55

㉓ 田坂さつき、技術と正義 - 『ポリテイア』第十卷(565a1-608c1)の解釈 -、立正大学文学部研究紀要、査読有、28、2012、1-28

㉔ Satoshi OGIHARA, The choice of life in the Myth of Er, *The Internet Journal of the International Plato Society*, 査読有、11、2012 <http://gramata.univ-paris1.fr/Plato/>

⑳ 納富信留、プラトン『ポリテイア』IX. 592a-b 再考、フィロロギカ、査読有、6、2011、1-12

〔学会発表〕(計 47 件)

Noburu NOTOMI, Plato's dissociation of the Art of *Logoi* in the *Phaedrus*, Workshop on Plato's *Phaedrus*, 19 March 2016, New York (USA).

納富信留、出で遣いへの言葉 井上忠との哲学、哲学会第 54 回研究発表会、2015 年 11 月 1 日、東京大学文学部(東京都文京区)

Noburu NOTOMI, Ancient Greek Philosophy in Japan: the Platonic "Ideas" and modern Japanese philosophers, *Globalizing Classics*, 5 September 2015, Berlin (Germany)

Noburu NOTOMI, What Japanese philosophers learned from Ancient Greek Philosophy: Onishi, Nishida and Watsuji, 現代日本哲学専門ワークショップ: 現代性語境中的翻譯與詮釋—中日哲學界的對話、2015 年 5 月 23 日、上海(中国)

Noburu NOTOMI, Metaphysics of the transformation of the soul, IPS Midterm Meeting: Platonic Moral Realism, 15 March 2015, Atlanta (USA)

Satoshi OGIHARA, Plato's *Philebus* and the 'Subjective-Objective' contrast, IPS Midterm Meeting: Platonic Moral Realism, 14 March 2015, Atlanta (USA)

Noburu NOTOMI, Reconsidering the relations between the sophist, the statesman, and the philosopher, Plato's *Statesman* Workshop, 20 November 2014, Boston (USA)

納富信留、エピカルモス、プラトン、アルキモス プラトン哲学の生成と初期の研究、フィロロギカ研究集会、2014 年 10 月 18 日、成城大学(東京都世田谷区)

Noburu NOTOMI, The Platonic 'Idea' in Modern Japan, 第 4 回日中哲学フォーラム、2014 年 9 月 20 日、北京(中国)

Yuji KURIHARA, The political contest between philosophy and rhetoric in Plato's *Gorgias*, XIV Congress of the FIEC, 30 August 2014, Bordeaux (France)

納富信留、アイデアの超越 魂の変容と現実の開示、日本哲学会第 73 回大会、2014 年 6 月 28 日、北海道大学(北海道札幌市)

- Yuji KURIHARA, Rhetoric and the political power of philosophy in Plato's *Menexenus*, Satoshi OGIHARA, The role of persuasion in the government of the ideal society in the *Laws*, Plato and Rhetoric, 27 April 2014, Keio University (Yokohama, Kanagawa)

Masahito TAKAHASHI, Making

speeches about justice: rhetoric and the Socratic elenchus, Plato and Rhetoric, 26 April 2014, Keio University (Yokohama, Kanagawa)

Satsuki TASAKA, Plato's Dialogues and bioethics: on a good life and death, Bounds of Ethics in a Globalized World, 7 January 2014, Karnataka (India)

納富信留、アイデアの永遠と同一 プラトン哲学への言葉での接近、西日本哲学会第 64 回大会、2013 年 11 月 30 日、九州産業大学(福岡県福岡市)

納富信留、古代ギリシア・ローマにおける「哲学」と「弁論術」の教育、第 62 回大会中世哲学会シンポジウム、2013 年 11 月 10 日、京都大学(京都府京都市)

納富信留、「ソフィスト思潮」とは何か?、ギリシャ哲学セミナー第 17 回共同研究セミナー、2013 年 9 月 15 日、東洋英和女学院大学(神奈川県横浜市)

Tomohiko KONDO, The birth of Stoic freedom from Plato's *Republic*, XXIII World Congress of Philosophy, 9 August 2013, Athens (Greece)

Noburu NOTOMI, The Platonic idea of "Ideal" and its reception in East Asia, XX-

⑳ - ㉑ Yuji KURIHARA, Socrates as a "radical" politician, Noburu NOTOMI, Freedom and the State in Plato's *Republic* (*Politeia*): Reconsidering the concept of *politeia*, XXIII World Congress of Philosophy, 5 August 2013, Athens (Greece)

㉒ Noburu NOTOMI, *Phaedrus* and the Sophistic Competition of Beautiful Speech, X Symposium Platonicum, 16 July 2013, Pisa (Italy)

㉓ Yuji KURIHARA, Telos and philosophical knowledge in Plato's *Symposium*, X Symposium Platonicum, 15 July 2013, Pisa (Italy)

㉔ 納富信留、「理想」の哲学的意義 現代社会に生きるプラトン哲学、グローバル化時代における現代思想、2013 年 1 月 19 日、香港(中国)

㉕ Noburu NOTOMI, Revisiting the issue of appearance in the *Sophist*, Workshop on Plato's *Sophist*, 17 November 2012, Seattle (USA)

㉖ 納富信留、プラトン「アカデメイア」の理念から考える、早稲田大学政治経済学部 130 周年記念シンポジウム、2012 年 11 月 10 日、早稲田大学(東京都新宿区)

㉗ Yuji KURIHARA, Plato on the 'decent' person in *Republic* Book 10, Plato's Moral Psychology, 6 October 2012, Ann Arbor (USA)

㉘ - ㉙ Satoshi OGIHARA, How free Magnesia is, Masahito TAKAHASHI, Concept of freedom in Plato's *Republic*,

Yoshihiro OSHIBA, Freedom in Horace's *Epodes*: poetic release from evil spells, Freedom and the State: Plato and the Classical Tradition, 7 August 2012, Oxford (UK)

③②-③⑤ Noburu NOTOMI, Freedom and the state in Plato's *Republic (Politeia)*: reconsidering the concept of *politeia*, Yoshinori SANO, The first stasimon of Sophocles' *Antigone*: comparison with related texts, Tomohiko KONDO, The Platonic origins of the Stoic notion of freedom, Yuji KURIHARA, City and freedom in Plato's *Menexenus*: comparison with Pericles' funeral oration in Thucydides' *History*, Freedom and the State: Plato and the Classical Tradition, 6 August 2012, Oxford (UK)

③⑥ 近藤智彦, ストア派の「自由」概念とプラトン『国家』, 北海道哲学会, 2012年7月21日, 札幌国際大学(北海道札幌市)

③⑦ Shigeki TSUCHIHASHI, Pseudo-Macarius' Homilies in the *Philokalia*, 7th Asia-Pacific Early Christian Studies Society, 5 July 2012, Seoul (Korea)

③⑧ 納富信留, 「理想」とは何か プラトンと近代日本, 国土館大学哲学会講演会, 2012年6月30日, 国土館大学(東京都世田谷区)

③⑨ Noburu NOTOMI, Mimesis, Colloque International: Qu'est-ce que l'esthétique ancienne?, 15 December 2011, Louvain-la-Neuve (Belgium)

④⑩ 納富信留, 近代日本の「理想国家」論 プラトン『ポリテイア』受容の意義, 第3回日中哲学フォーラム, 2011年11月19日, 慶應義塾大学(神奈川県横浜市)

④⑪-④⑫ 大芝芳弘, Horatius, *Epod.* 11, 納富信留, プラトン『饗宴』178Bの引用について, 第10回フィロロギカ研究集会, 2011年10月15日, 東京大学(東京都目黒区)

④⑬ 納富信留, プラトンにおける時間と永遠, 第18回新プラトン主義協会大会, 2011年9月24日, 上智大学(東京都千代田区)

④⑭ Noburu NOTOMI, Gorgias's use of logic and rhetoric, 18th Biennial Conference of the International Society for the History of Rhetoric, 18 July 2011, Bologna (Italy)

④⑮ 栗原裕次, プラトンと<ポリス>の哲学 民主政「洞窟」の内と外, 法政哲学会第31回大会, 2011年6月11日, 法政大学(東京都千代田区)

〔図書〕(計23件)

納富信留 他, 慶應義塾大学出版会, テクストとは何か 編集文献学入門, 2015, 3-24, 245-253, ix+258

Noburu NOTOMI 他, Philosophy Documentation Center, *Selected Papers*

from the XXIII World Congress of Philosophy: Philosophy as Inquiry and Way of Life, 2015, 137-147, 447

田中伸司, 高橋雅人 他, 講談社, ミヒャエル・エルラー著 知の教科書 プラトン, 2015, 382

納富信留 他, 明石書房, ポストフクシマの哲学 原発のない世界のために, 2015, 222-251, 292

納富信留, 土橋茂樹, 栗原裕次, 荻原理, 田中伸司, 田坂さつき, 高橋雅人 他, 知泉書館, 内在と超越の闘 加藤信朗米寿記念哲学論文集, 2015年, xii+289

納富信留, 岩波書店, プラトンとの哲学 対話篇をよむ (岩波新書), 2015, 243

Noburu NOTOMI 他, Routledge, *The Routledge Companion to Ancient Philosophy*, 2014, 94-110, 728

Noburu NOTOMI 他, Cambridge University Press, *The Platonic Art of Philosophy*, 2013, 51-69, 351

栗原裕次, 知泉書館, イデアと幸福 プラトンを学ぶ, 2013, 278

Noburu NOTOMI 他, Brill, *Protagoras of Abdera: The Man, His Measure*, 2013, 11-36, 332

Satoshi OGIHARA 他, Parmenides Publishing, *Presocratics & Plato*, 2013, 291-310, 630

納富信留, 日本放送協会出版, 100分de名著 プラトン『饗宴』, 2013, 101

Noburu NOTOMI, Yuji KURIHARA, Yoshinori SANO, Tomohiko KONDO 他, Academia Verlag, *Dialogues on Plato's Politeia (Republic): Selected Papers from the Ninth Symposium Platonicum*, 2013, 426

納富信留, 光文社, プラトン『ソクラテスの弁明』(光文社古典新訳文庫), 2012, 218

納富信留, 慶應義塾大学出版会, プラトン 理想国の現在, 2012, 300+x

Yuji KURIHARA 他, Bristol Classical Press, *Alcibiades and the Socratic Lover-Educator*, 2012, 77-89, 272

Noburu NOTOMI 他, Academia Verlag,

Inner Life and Soul: Psyche in Plato, 2011, 185-193, 364

Noburu NOTOMI 他, OIKOYMENH, *Plato's Sophist: Proceedings of the Seventh Symposium Platonicum Pragense*, 2011, 146-155, 352

Noburu NOTOMI 他, SAGE, *International Encyclopedia of Political Science*, 2011, 1047-1052, 4032

納富信留 他、講談社、西洋哲学史 「ある」の衝撃からはじまる、2011、35-90、456

① Yuji KURIHARA 他, Springer, *Socratic, Platonic and Aristotelian Studies*, 2011, 271-279, 410

② 大芝芳弘 他、慶應義塾大学出版会、文明のサイエンス 人文・社会科学と古典的教養、2011、95-124、336

③ Noburu NOTOMI 他, Academia Verlag, *Formal Structures in Plato's Dialogues: Theaetetus, Sophist and Statesman*, 2011, 216-224, 252

〔その他〕
ホームページ等
<http://platosociety.org/ips-conference-report-plato-rhetoric/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

納富 信留 (NOTOMI, Noburu)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：5 0 2 9 4 8 4 8

(2) 研究分担者

栗原 裕次 (KURIHARA, Yuji)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：4 0 2 8 2 7 8 5

荻原 理 (OGIHARA, Satoshi)
東北大学・文学研究科・准教授
研究者番号：0 0 3 4 4 6 3 0
(平成 23-25、27 年度)

大芝 芳弘 (OSHIBA, Yoshihiro)
首都大学東京・人文科学研究科・教授
研究者番号：7 0 1 8 5 2 4 7
(平成 23-25 年度)

田中 伸司 (TANAKA, Shinji)
静岡大学・人文社会科学部・教授
研究者番号：5 0 2 0 7 0 9 9

高橋 雅人 (TAKAHASHI, Masahito)

神戸女学院大学・文学部・教授
研究者番号：9 0 3 0 9 4 2 7
(平成 23-25、27 年度)

土橋 茂樹 (TSUCHIHASHI, Shigeki)
中央大学・文学部・教授
研究者番号：8 0 2 0 7 3 9 9
(平成 23-25 年度)

田坂 さつき (TASAKA, Satsuki)
立正大学・文学部・教授
研究者番号：7 0 3 0 8 3 3 6

近藤 智彦 (KONDO, Tomohiko)
北海道大学・文学研究科・准教授
研究者番号：3 0 4 2 2 3 8 0
(平成 23-25、27 年度)

佐野 好則 (SANO, Yoshinori)
国際基督教大学・教養学部・教授
研究者番号：5 0 2 9 5 4 5 8
(平成 25 年度)

(3) 連携研究者

荻原 理 (OGIHARA, Satoshi)
東北大学・文学研究科・准教授
研究者番号：0 0 3 4 4 6 3 0
(平成 26 年度)

大芝 芳弘 (OSHIBA, Yoshihiro)
首都大学東京・人文科学研究科・教授
研究者番号：7 0 1 8 5 2 4 7
(平成 26-27 年度)

高橋 雅人 (TAKAHASHI, Masahito)
神戸女学院大学・文学部・教授
研究者番号：9 0 3 0 9 4 2 7
(平成 26 年度)

土橋 茂樹 (TSUCHIHASHI, Shigeki)
中央大学・文学部・教授
研究者番号：8 0 2 0 7 3 9 9
(平成 26-27 年度)

近藤 智彦 (KONDO, Tomohiko)
北海道大学・文学研究科・准教授
研究者番号：3 0 4 2 2 3 8 0
(平成 26 年度)

佐野 好則 (SANO, Yoshinori)
国際基督教大学・教養学部・教授
研究者番号：5 0 2 9 5 4 5 8
(平成 23-24、26-27 年度)